

優しくするって難しい。私は、優しくするのが当たり前だと思っていた。

中学二年の冬。私はある人と出会った。私と弟は母に買い物を買われスーパーに買い物に行った。すると、突然私は誰かに肩をたたかれ、振り向いた。そこには一人の女性がいた。

「こんにちは」と挨拶されたので返したが、私は少し頭が混乱していた。なぜならその女性は手にクシャクシャのセロハンテープで何回も直した形跡のある写真を持っていて、少し落着きがなかったからだ。私は、障がいを持っている人なのかな、と感じた。

「どうしたんですか」

と尋ねてみた。そしたら女性は、弟が持っているジュースを指して

「これちょうだい」

と言ってきた。私は優しくしなくてはと思い、即座にいいですよと答えた。そして、

「この写真すてきですね。」

と話しかけると、

「ありがとう」

と返してくれたが、言葉が上手くでていなく話しくそうだった。

私の母は、障がいを持つ子供達が通う施設に勤めている。障がいについては母からよく聞いていた。家へ帰り母にこの話をすると母は、

「そうだね。もしかして障がいを持っている方なのかもしれないね。」

と言った。そして

「障がいを持っているからといって、その人が求めていることに対して全て応えてあげるのは、

ちがうような気がするな。」

と言われ、「なぜ」と私は母の言っていることが理解できなかった。ジュースをほしいと言ってきた障がい者らしき人に対してジュースを買ってあげたことをほめられると思ったからだ。しかし母は、

「その人は、誰にでも言えば欲しいものがもらえると違うようになってしまわないかな。それが当たり前になってしまうと、その人は逆に困ってしまうことにならないかな。優しくするって難しいね。」

と言った。私は障がいを持っている人に優しくするのが当たり前だと思っていた。しかし母の話聞いて、これは優しさではなかったかなと思った。確かにその人が例えば怖そうな人も気軽に「ちょうだい」と言って「なんでだよ」と怒られたり、バカにされたりしたら、その人が可哀そうだと思った。

「できないことはできないよ、ごめん。」

と伝えるべきだったのだろうかと思んだ。また、母は自閉症についても教えてくれた。

「障がいの一つに自閉症というのがあるんだよ。自閉症の子はね、一人で外国を旅している感じなんだって。」

と言った。

「未菜は、一人でアメリカを旅してきてと言われたらどう思う？」

と聞かれた。私は、話しかけられても何を言われているのか分からないし、理解できなくて困るし不安になると思った。自閉症の人に対しては、丁寧に分かりやすく伝えることが大切なのだと思った。

私は、同じ人間として障がいを持つ人を知っていききたいと思った。優しくするのも大切だが、

理解して助けていきたいと今回の出会いから感じた。

私は今まで障がいを持つ人との関わりに不安を感じていたが、これからは、学校で行う予定の障がいを持つ人との交流会など積極的に参加してみたいと思う。障がいを持つ方と関わることで分かることがあると思うからだ。

最後に私は将来、理学療法士になることが夢だ。夢を叶えられたら患者さんの中には、もしかして障がいを持つ方がいるかもしれない。その時に、その人を理解して関わっていくことも大切だと思う。このようなことから本当の意味で「優しい人」になりたい。理解して助け合うことが「当たり前」のことに自分はなれたらいいと思う。